

# 2025年度 法科大学院

## 第3期入学試験問題

### 4時限

## 民事訴訟法・刑事訴訟法

### (短答式・論述式)

## 試験時間合計 40分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には受験番号および氏名の記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 必ず〔民事訴訟法〕の解答は〔民事訴訟法〕の解答用紙に、〔刑事訴訟法〕の解答は〔刑事訴訟法〕の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 六法等の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいません。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [民事訴訟法]

問1 Xが東京都千代田区に、Yが大阪市に住所を有していたところ、それぞれの運転する自動車が京都市内で正面衝突した交通事故（以下「本件事故」という。）に係る訴えの管轄に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

なお、請求額は、いずれも140万円を超えるものとする。

1. Xは、Yを被告として、不法行為に基づく物損の損害賠償を求める訴えを京都地方裁判所に提起することができる。
2. Yが本件事故後に福岡市に転居した場合、Xの制限速度違反により本件事故が発生し、Yに重大な身体に対する傷害が生じたとして、Xを被告とする不法行為に基づく損害賠償請求の訴えをYが提起するときは、福岡地方裁判所にこれを提起できる。
3. XがYを被告とする不法行為に基づく損害賠償を求める訴えを大阪地方裁判所に提起し、審理が進んだとしても、Xの死亡により名古屋市に住所を有する唯一の相続人がXのYに対する損害賠償請求権を相続したときは、裁判所は、職権で名古屋地方裁判所に訴訟を移送することができる。
4. XがZ保険会社（本店所在地は東京都中央区にある。）の広島市所在の営業所で任意の自動車保険契約を締結した場合、XはZ保険会社に対する保険金の支払を求める訴えを広島地方裁判所に提起することができる。

問2 給付の訴えの利益に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

1. 確定した給付判決がある場合でも、消滅時効の完成猶予のために訴えの提起以外に適当な方法がないときは、当該給付判決の対象となった給付請求権について再度の訴えを提起する利益が認められる。
2. 所有権保存登記及びその後順次経由された所有権移転登記の抹消登記手続請求訴訟において、最終登記名義人を被告とする請求について敗訴の判決があった場合、給付判決を得ても給付の実現が不可能であるから、その余の被告らに対する請求は訴えの利益が認められない。
3. 自己の所有する土地を継続的に不法に占有されている者が将来の賃料相当額の損害賠償を求める訴えには、訴えの利益が認められる。
4. 物の給付を請求し得る債権者が、本来の給付の請求と執行不能の場合における履行に代わる損害賠償の請求を一の訴えで提起する場合、将来の損害賠償請求の給付を求める利益が認められる。

問3 期日に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 当事者は、期日の申立てをすることができない。
2. 次回の期日の呼出しは、呼出状の送達によらなければならないが、当該事件について出頭した者に対して次回期日を告知する方法ではできない。
3. 証拠調べは、当事者が期日に出頭しない場合であっても、することができる。
4. 裁判所書記官は、口頭弁論について、期日ごとに調書を作成する必要はない。

問4 訴訟記録に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

1. 訴訟記録の閲覧を請求できるのは、当事者及び利害関係を疎明した第三者に限られる。
2. 訴訟記録の閲覧の請求は、裁判所の執務に支障があるときは、することができない。
3. 当事者及び利害関係を疎明した第三者は、裁判所書記官に対し、訴訟記録の謄写の交付を請求することができる。
4. 訴訟記録中に当事者の私生活についての重大な秘密が記載され、かつ、第三者が秘密記載部分の閲覧等を行うことにより、その当事者が社会生活を営むのに著しい支障を生ずるおそれがあることの疎明があった場合には、裁判所は、当該当事者の申立てにより、決定で、当該訴訟記録中当該秘密が記載された部分の閲覧請求ができる者を当事者に限ることができる。

問5 当事者本人の尋問に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 裁判所は、職権で、当事者本人を尋問することはできない。
2. 地方裁判所は、当事者本人が遠隔地に居住しているなど相当と認める場合において、当事者に異議がないときは、当事者本人の尋問に代え、書面の提出をさせることができる。
3. 当事者本人の尋問においては、その陳述によって自己が敗訴するおそれのあることが、陳述を拒む正当な理由とならない。
4. 当事者本人は、裁判長の許可を受けたときであっても、記憶喚起のため、書類に基づいて陳述することができない。

問6 口頭弁論の終結に関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 終結した口頭弁論を再開した場合には、裁判官が代わっていない場合であっても、弁論の更新の手續を要する。
2. 訴えを不適法であるとして却下する判決をする場合には、口頭弁論を経たときであっても、口頭弁論を終結する必要はない。
3. 第一審の口頭弁論の終結後に当事者から書証として提出された文書は、第一審判決の資料とすることはできないが、控訴審において第一審の口頭弁論の結果が陳述された場合には、訴訟記録につづられていれば、当該文書も証拠として控訴審における判決の資料とすることができる。
4. 本訴の事実審の口頭弁論終結後は、上告審でも反訴を提起することができない。

問7 訴えの取下げ及び控訴の取下げに関するつぎの記述のうち、もっとも適切なものを一つ選びなさい。

1. 判決が確定した後でも、相手方の同意を得れば、訴えを取り下げることができる。
2. 本案について終局判決があった後に訴えを取り下げた場合でも、相手方の同意があれば、同一の訴えを提起することができる。
3. 本訴の取下げ後に被告が反訴を取り下げるときは、原告が反訴の本案について口頭弁論をした後においても、原告の同意を要しない。
4. 控訴人は、控訴審の終局判決があった後においても、当該判決が確定するまでは、控訴を取り下げることができる。

問8 上告の手續に関するつぎの記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

1. 最高裁判所に上告がされた場合において、上告人が主張している事由が上告理由に該当しないことが明らかなとき、最高裁判所は、決定で、当該上告を棄却することができる。
2. 最高裁判所への上告は、判決に憲法解釈の誤りがあることその他憲法の違反がある場合のほか、判決に影響を及ぼすことが明らかな法令の違反がある場合に許される。
3. 上告裁判所は、職権調査事項を除いて、原判決において適法に確定された事実拘束される。
4. 高等裁判所が上告審としてした終局判決に対しては、憲法違反を理由として最高裁判所に対して更に不服を申し立てることができる。

問9 証明責任の分配の基準について7行以内で説明しなさい。

## [刑事訴訟法]

問1 迅速な裁判に関する次の記述のうち、もっとも適切でないものを一つ選びなさい。

- ア 訴訟を遅延させる目的のみでされたことの明らかな忌避の申立ては、決定でこれを却下しなければならない。この場合、忌避された裁判官が却下決定に関与することができる。
- イ 裁判員裁判では、一般の国民が審理に参加するので、その負担を軽減するためにも、裁判の迅速性が要求される。
- ウ 裁判所は、公訴提起後2カ月以内に被告人に起訴状謄本が送達されない場合、決定で公訴を棄却しなければならない。
- エ 刑事訴訟法には、裁判の迅速を欠くに至った場合に遅延裁判であることを理由として手続の打ち切りを認める明文の規定が存在する。
- オ 裁判所は、審理に2日以上を要する事件については、できる限り、連日開廷し、継続して審理を行わなければならない。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ 5 オ

問2 捜索に関する次の記述のうち、もっとも適切でないものの組み合わせを一つ選びなさい。但し、判例がある場合には、それに照らして考えるものとする。

- ア 捜索差押許可状には、犯罪事実の要旨を記載しなくてもよい。
- イ 司法警察員は、被疑者に対する覚醒剤取締法違反被疑事件について、被疑者に捜索差押許可状を呈示し、同許可状に基づき被疑者方居室を捜索中に、被疑者宛てに配達され、被疑者が受領した荷物を捜索することができる。
- ウ 被疑者以外の者の身体、物又は住所その他の場所については、押収すべき物の存在を認めるに足りる状況のある場合に限り、捜索をすることができる。
- エ 捜索差押の際には、被疑者のプライバシー権を不当に侵害する可能性があるので、被疑者に立会権が認められている。
- オ 覚醒剤事犯の前科のある被疑者が令状執行の動きを察知すれば覚醒剤を破棄隠匿するおそれがあったとしても、司法警察員が、令状の呈示に先立って被疑者の宿泊しているホテル客室のドアをマスターキーで開けて入室することは許されない。

1 ア、イ 2 ア、エ 3 イ、ウ 4 ウ、オ 5 エ、オ

問3 逮捕・勾留に関する次の記述のうち、もっとも適切でないものの組み合わせを一つ選  
びなさい。但し、判例がある場合には、それに照らして考えるものとする。

ア 通常逮捕の逮捕状の請求を受けた裁判官は、被疑者が罪を犯したことを疑うに足りる  
相当な理由があると認められるときは、常に逮捕状を発しなければならない。

イ 司法警察員は、逮捕状により被疑者を逮捕したときは、直ちに犯罪事実の要旨及び弁  
護人を選任することができる旨を告げた上、弁解の機会を与えなければならない。

ウ 犯行現場から継続した追跡があっても、途中で追跡者が変わった場合には、もはや前  
の逮捕行為と同一の行為とはいえないから、被追跡者が「現に罪を行い終わった者」に  
あたることはない。

エ 被疑者の勾留に関して、裁判官は、検察官から勾留期間を10日延長する請求があっ  
た場合でも、その延長期間を5日とする裁判をすることができる。

オ 「罪証を隠滅するに疑うに足りる相当な理由がある」といえるためには、被疑者にお  
いて主観的に罪証を隠滅しようとする意図があることに加えて、客観的な罪証隠滅の可  
能性及び実効性がなければならない。

- 1 ア、イ    2 ア、ウ    3 イ、オ    4 ウ、エ    5 エ、オ

問4 接見交通権に関する次の記述のうち、もっとも適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。但し、判例がある場合には、それに照らして考えるものとする。

ア 被疑者の弁護人は、身体拘束された被疑者と立会人なく面会できる接見交通権を有する。しかし、被疑者に刑事訴訟法第81条の接見禁止処分がなされている場合は、弁護人は被疑者と接見することができない。

イ 同一人について、被告事件の勾留と余罪についての逮捕、勾留が競合している場合、検察官等は、被告事件について弁護人の防御権の不当な制限にわたらない限り、余罪について弁護人の接見の日時等を指定することができる。

ウ 検察庁の庁舎内に接見室がなく、接見に用いられる部屋もないような場合、検察官は、庁舎内にいる被疑者との接見に関する弁護人からの申し出を拒否することができる。弁護人がなお即時の接見を求め、立会人のいる部屋でのごく短時間の面会でも差し支えない意向であった場合でも、検察官はそれができるように配慮する必要はない。

エ 弁護人となろうとする者と被疑者との逮捕直後の初回接見は、これを速やかに行うことが被疑者の防御の準備のために重要である。そのため、捜査機関は、「捜査のために必要があるとき」にあたる場合であっても、弁護人の接見の日時等を指定することが許されることはない。

オ 弁護人には、接見終了後においても、捜査機関に接見内容を知られない秘密交通権というべき権利が保障されている。検察官が、いまだ秘密性が消失していない被疑者と弁護人との間の意思疎通の過程を聴取し調書化したことは、被疑者と弁護人との自由な意思疎通ないし情報伝達に萎縮的効果を及ぼすおそれがあるから、違法となる。

- 1 ア、エ      2 ア、オ      3 イ、エ      4 イ、オ      5 ウ、オ

問5 公訴提起、訴因変更等に関する次の記述のうち、もっとも適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。但し、判例がある場合には、それに照らして考えるものとする。

ア 詐欺罪の公訴事実について、その冒頭に、「被告人は詐欺罪により既に二度処罰を受けたものであるが」と記載することは、公訴事実につき、裁判官に予断を生ぜしめるおそれのある事項にあたらぬ。

イ 起訴状には、裁判官に予断を生ぜしめるおそれがある書類その他の物を添付することを禁止しているため、検察官が被告人を勾留中のまま公訴提起する際に、起訴状の提出と同時に、被告人の逮捕状や勾留状を提出することは許されぬ。

ウ 覚醒剤の使用の日時は「令和6年8月26日ころから同年9月3日までの間」、その場所を「広島県A郡B町内及びその周辺」、その使用量、使用方法を「若干量を自己の身体に注射又は服用して施用し」との公訴事実の記載は、日時、場所の表示にある程度の幅があり、かつ、使用量、使用方法の表示にも明確を欠くところがあるとしても、検察官において起訴当時の証拠に基づきできる限り特定したものである以上、訴因の特定に欠けるところはない。

エ 「被告人Xは、公務員Yと共謀の上、Yの職務に関し、Zから賄賂を収受した」という収賂の共同正犯の訴因から、「Xは、Zと共謀の上、Yの職務に関し、Yに対して賄賂を供与した」という贈賄の共同正犯の訴因への変更は、「公訴事実の同一性」を欠き、許されることはない。

オ 被告人が「広島県C市内において、帰宅中のVを殴打して反抗を抑圧して金員を強取した」という強盗の訴因に対して、同日同所においてVを殴打して金員を喝取したという恐喝の事実を認定するためには、訴因変更手続を要しない。

- 1 ア、エ    2 ア、オ    3 イ、ウ    4 イ、エ    5 ウ、オ

問6 裁判員裁判、公判前整理手続に関する次の記述のうち、もっとも適切でないものの組み合わせを一つ選びなさい。

ア 裁判員裁判の対象事件の被告人が、裁判員の参加する裁判ではなく、裁判官のみの合議体による審理を受けることを申し立てた場合には、裁判所は、当該事件を裁判官のみの合議体で審理する旨の決定をしなければならない。

イ 公判前整理手続に付された事件については、被告人又は弁護人は、証拠により証明すべき事実その他の事実上及び法律上の主張があるときは、公判手続において、検察官の冒頭陳述の手続に引き続き、これを明らかにしなければならない。

ウ 裁判員裁判において、裁判官及び裁判員の合議によって判断される事項は、事実の認定、法令の適用、刑の量定である。これに対し、法令の解釈に係る判断、訴訟手続に関する判断などは、裁判官のみによる合議に委ねられている。

エ 公判前整理手続においては、被告人に弁護人がなければその手続を行なうことができないので、被告人に弁護人がないときは、裁判長は、職権で弁護人を付さなければならない。

オ 公判前整理手続は、その後の公判における審理の証拠調べの在り方を決定するものであるから、公開の法廷で行わなければならない。

- 1 ア、イ    2 ア、オ    3 イ、ウ    4 ウ、エ    5 エ、オ

問7 冒頭手続、証拠調べ手続に関する次の記述のうち、もっとも適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。但し、判例がある場合には、それに照らして考えるものとする。

ア 公判の冒頭手続では、被告人の定質問、検察官の起訴状朗読の後に、裁判長から被告人に対して権利の告知がなされる。次いで、裁判長は、被告人及び弁護人に対し、被告事件についての陳述を求める。裁判長は、被告人から公訴事実についての認否、抗弁を聞く必要があるため、被告人はこの陳述において黙秘することはできない。

イ 証拠書類を取り調べるには、裁判長は証拠書類の取調べを請求した者に、これを朗読させなければならない。しかし、裁判長は、訴訟関係人の意見を聴き、相当と認めるときは、この朗読に代えて、取調べの請求者にその要旨を告げさせることができる。

ウ 検察官は、出刃包丁を凶器とする殺人被告事件の証拠として、犯行に使用された出刃包丁の証拠調べを請求した。この場合、出刃包丁は非供述証拠であり伝聞法則は適用されないため、裁判所は、弁護人の証拠意見を聴かずに、出刃包丁の証拠の採用決定ができる。

エ 検察官は、被告人の自白を内容とした書面を、犯罪事実に関する他の証拠が取調べられた後でなければ取調べ請求することができず、他の証拠と同時に取調べ請求することは違法である。

オ 被告人質問においては、実務上、まず弁護人が主質問を行い、次いで検察官が反対質問をし、裁判所が補充質問を行う、という順番でなされている。裁判所が被告人に対して質問をしなかったとしても、訴訟手続の法令違反の問題は生じない。

- 1 ア、ウ    2 ア、エ    3 イ、エ    4 イ、オ    5 ウ、オ

問8 伝聞証拠に関する次の記述のうち、もっとも適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。但し、判例がある場合には、それに照らして考えるものとする。

ア 証人が公判廷において証言を拒絶した場合は、刑事訴訟法第321条第1項第2号前段の「公判準備若しくは公判期日において供述することができないとき」に該当する。

イ 退去強制によって出国した外国人の検察官に対する供述調書については、刑事訴訟法第321条第1項第2号前段のその供述者が「外国にいる」という要件を満たすので、常に事実認定の証拠とすることができる。

ウ 弁護人が証拠とすることに同意した被告人の自白調書についても、刑事訴訟法第325条の適用があり、任意性の調査をした後でなければ、証拠とすることはできない。

エ 甲のVに対する殺人既遂被告事件について、甲が精神異常であることを要証事実として、証人Wの「甲は、『神の啓示を受けてVを殺害した。』」と言っていました。」という証言を証拠として用いる場合、伝聞証拠に該当する。

オ 甲の常習累犯窃盗被告事件について、甲が常習として窃盗を行った事実を要証事実として、甲の前科調書を証拠として用いる場合、伝聞証拠に該当する。

- 1 ア、ウ    2 ア、オ    3 イ、ウ    4 イ、エ    5 エ、オ

問9 逮捕前置主義の意義、趣旨について、知るところを、7行以内で述べなさい。